

平成27年度 第2回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成27年7月8日（水） 午後6時 ～ 8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 多目的ホール

【出席者】 委 員：植田、河藤、川名、松尾、下吹越、前田、志村、加藤、富田、益田、酒井各委員

事務局：加賀美地域文化部長、太田産業振興課長、橋本文化観光課長、菊地新宿観光振興協会事務局長、
黒澤産業振興係長、久野主任主事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 北村、坂倉各委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

（1）産業振興会議第2期 報告書（案）説明

（2）報告書（案）についての意見交換

3 主な発言内容

○答申骨子

・第5章の記載がないが、第5章までが答申なので第5章の説明も付け加える。

○第1章

・「新宿区の発展における歴史的背景」に、新宿には大名の下屋敷が非常に多かった地域だということを書き加えてはどうか。下屋敷は大名の別荘的な役割を果たしており茶道や華道が盛まれていた。現在も茶道人口、華道人口が多い地域で新宿の特徴といえる。

○第2章

・議論にあがっていた「キーマン」の書き込みが足りないのではないか。キーマンの発掘、既存のキーマンの活用や連携という記載があってもいい。

・中小企業の相談窓口は、あるからいいのではなく、十分機能していないのではないかという意見が強かったと思う。十分機能していないから機能させるために、もっと連携を図っていくような活動が必要であるというのを盛り込んでどうか。

・国や都の施策を現場まで届けないといけないと思う。企業自身で拾っていくという努力も必要だが、活用できる現場に新宿区が届けていくというところまで書いた方がいいのではないか。

・情報提供は「情報が届く」「情報が届かない」という差が出ないよう、公平性が必要である。しかし「情報提供していることを知らない」というのは、必要なところに必要な情報を行き渡らせるという目的からすると不十分であるので考えていかななくてはならない。

○第3章

・「来街者の増加による消費および需要の拡大」を進めていき、「新しい産業の創出」や「新商品や新サービスの展開」をしていくことで、「持続的な地域産業の活性化」ということを図っていくという流れには逆方

向もあり、「持続的な地域産業の活性化」が「新しい産業の創出」や「新商品や新サービスの展開」もつくり、「来街者の増加による消費および需要の拡大」をつくっていく。最終的には循環する、回っていくスタイルになっていくということが理想的だと思う。

- ・外国人は公衆電話を使用することが多いので、情報の提供には公衆電話を追記したほうが良い。
- ・「観光と一体になった産業振興」は、情報発信力の強化や楽しめるまちに向けた環境整備、受け入れ環境の整備など、来街者を受け入れるうえでの課題など、観光振興に取り組む上での課題と、それに応えられるような産業や企業がうまく結びついていくことが重要だと思う。
- ・持続的な地域産業の活性化は、観光と一体となった産業振興に対する考え方であり、最終的には観光振興と産業振興を循環させ、その仕組みをつくっていくためには何が必要かという方向性と取組みにつながっていかなければいけない。

○第5章

- ・「第2期の議論の積み残しや深掘り」と「産業振興計画と産業実態調査」の構成とする。
- ・新宿をあらわすロゴやキャラクター、キーワードやブランドなどは、すぐに結論が出るものではないが、来期の検討事項とする。

○産業振興会議設置後の取り組み

- ・ここに書かれていること以外にも取り組みがあるのではないかと。委員が資源を持ち寄って新しく始めたことや、新しい企画を打ったということがあると思う。

○その他

- ・新宿ものづくりマイスター制度によって認定された、様々な業種のマイスターが現在 37 名いる。文化やインバウンドの情報としても役に立つと思うので、報告書の本文にマイスターの記載を入れてはどうか。

4 次回日程について（予定）

○区長への答申

日 時：平成27年8月4日（火）9:00 から

会 場：新宿区役所本庁舎 3階 区長室

5 閉会